

令和7年度 第1回 静岡市感染症対策協議会 議事録

1 日時等

- (1) 日 時 令和7年7月3日(木) 19時15分から21時10分まで
- (2) 場 所 城東保健福祉エリア 保健福祉複合棟3階 第1・2研修室
- (3) 出席者 市川委員、伊藤委員、岩井委員、片平委員、草ヶ谷委員、莊司委員、
白鳥委員、鈴木委員、鈴木委員、田口委員、水野委員、山本委員
- (4) 傍聴人 なし
- (5) 資 料
 - ・ 次第
 - ・ 委員名簿
 - ・ 席次表
 - ・ 資料1：静岡市感染症対策協議会について
 - ・ 資料2：静岡市感染症予防計画について
 - ・ 資料3：新型インフルエンザ等対策行動計画の改定について
 - ・ 静岡市附属機関設置条例（抜粋版）
 - ・ 静岡市感染症予防計画（冊子）
 - ・ 静岡県新型インフルエンザ等対策行動計画（冊子）

2 議事

- (1) 静岡市感染症対策協議会について
- (2) 静岡市感染症予防計画について
 - ・ 静岡市感染症予防計画の概要
 - ・ 静岡市感染症予防計画の令和6年度の事業実績（主な取組）
 - ・ 静岡市感染症予防計画の令和7年度の事業計画（主な取組）
 - ・ 静岡市感染症予防計画における主な取組
- (3) 静岡市新型インフルエンザ等対策行動計画の改定について
- (4) その他

3 会議録

- 開会（司会）
- 挨拶（千須和統括監）
- 自己紹介（各委員・事務局）
- 附属機関設置条例に基づく開催人数充足の確認（司会）
- 議事、議事録についての諸注意（司会）
- 附属機関設置条例に基づく会長の互選による選出（司会）、副会長の指名（会長）

【水野会長】

それでは議長として進行いたします。

まず、議事の最初の項目として、(1)「静岡市感染症対策協議会について」事務局から説明をお願いします。

【海野課長】

(※省略：資料 1 (1)「静岡市感染症対策協議会について」1～2P の説明)

【水野委員】

ただいまの説明について、ご意見・ご質問はありますでしょうか。

(特になし)

【水野会長】

その他特にご意見がないようでしたら、次に(2)「静岡市感染症予防計画」について、はじめに①「静岡市感染症予防計画の概要」について事務局から説明をお願いします。

【海野課長】

(※省略：資料 2 (2)「静岡市感染症予防計画について」3～5P の説明)

【水野委員】

ただいま予防計画の概要説明がありました。ご質問や補足の希望はありますでしょうか。

(特になし)

【水野委員】

それでは、(2) ②「令和 6 年度の事業実績」について事務局から説明をお願いします。

【海野課長】

(※省略：資料 2 (2)「静岡市感染症予防計画について」6～12P の説明)

【水野委員】

令和 6 年度事業実績の報告は以上です。内容が非常に膨大ですが、委員の皆様からご質問・ご意見はございますか。

【莊司委員】

HPV ワクチンの接種率がなかなか戻らず、低い状況です。静岡県小児科医会の予防接種協議会でも話題になっており、小中学校に案内を出しても接種率は 2 割程度と非常に低い。带状疱疹とは対照的な状況であり、市民委員の意見をぜひ伺いたいです。

【水野委員】

HPV ワクチンについて、医師が「積極的に接種を」と新聞で発信した途端、病院に反対の電話が殺到する状況がありました。誤った風評に基づき、テレビ等を見て「接種しない方がよい」と考える人がまだ多い状況です。これらに対して、正しい情報をアナウンスする動きがまだまだ弱いと考えます。市としても正しい情報提供の努力はしているかもしれないが、市民委員の方の視点では、受け止め方はどうでしょうか。

【白鳥委員】

带状疱疹には関心があっても、HPV ワクチンへの認識は薄いと感じます。

【草ヶ谷委員】

静岡市の状況は全国平均と比べてどうですか。

【水野委員】

全国平均との比較情報はありますか。

【海野課長】

全国平均の数字は把握していないため、回答できません。

【田中所長】

ビーナススタディに参加している背景として、8年間の接種遅れと当時の「危険」とする情報の先行があります。人は「安全」より「危険」と言われる情報に反応しやすく、反ワクチンの動きも根強い状況です。科学的・正確な情報を研究機関・大学に提供し、正しい結果を市民に還元することが重要です。小中学校ルートでの案内は全国初で、徐々に状況は改善されてきています。しかし、HPV ワクチンの接種遅れによる影響で、年間約2万人が子宮頸がんを発症し、3千～4千人が死亡しています。海外では撲滅宣言を出す国もあり、日本の現状は国際的に問題視されています。自治体としてできることを継続して実施していくとともに、市民への啓発にご協力をいただきたいと思います。

【水野委員】

ありがとうございます。

【海野課長】

(全国平均との比較について)

令和6年度単年度の政令市平均と比べると、静岡市の初回接種率は2～3%高くなっています。

【水野委員】

全国の政令市では比較的高い水準になっているということですか。

【海野課長】

はい、平均より 2～3%高い状況です。

【水野委員】

欧米に比べると接種率は低く、子宮頸がん発生が高いため、キャンペーンを広げていく必要があると考えます。

【岩井委員】

ワクチンの一般認識について、尾身氏のテレビ発言などで「感染予防効果は期待ほどでなかった」と報道され、説明不足が目立ちます。

コロナワクチンでは当初「打てば終わる」と言われ、ブースター接種が繰り返されるなど経緯の説明が不十分で、信頼性が下がったと考えます。

【田中所長】

尾身氏の発言は切り取られて報道された可能性が高いと考えています。

市としても動画やステッカーを用いた情報発信を行っているが、アクセスは限られる状況です。コロナ禍ではワクチン接種を行わなければ3万人～4万人の過剰な死亡が出たのではないかというエビデンスもあり、対策は0か100ではないと考えます。

ワクチンの位置付けは感染症の変異や社会情勢に応じて変化するため、正しい情報提供を継続して行ってまいります。

【水野委員】

それでは、白鳥委員からお願いします。

【白鳥委員】

園児の保護者で予防接種をさせない方が増えていると感じます。

インフルエンザワクチンも接種率が下がっているように思われ、ワクチンに対する保護者の不安が影響していると感じます。

【莊司委員】

かかりつけ医との信頼関係が不安解消に重要であり、個別対応が必要であると考えます。安全情報より危険情報に反応しやすく、信頼している医療者からの個別説明が唯一の対抗手段で、ワクチンごとの効果の違い（はしかは一生免疫、インフル・百日咳は一時的）も市民に理解してもらう必要があると思います。メディアの方にもご意見をいただきたいです。

【市川委員】

マスコミ側からワクチンを打った方がよいと報道しても、「マスコミが報道しない真実」というものを抛り所にされてしまうと、反ワクチンの層には響かないどころか、逆効果にもなりうると思います。マスコミもファクトチェックに力を入れているが、ワクチン

に関しては医療従事者、有識者でも意見が分かれている状況です。SNS 上で分断するような情報がまん延しており、昔よりも正しい情報を伝えていくのが難しくなっていると感じます。

【水野委員】

ワクチン問題は今後も継続的に議論すべきテーマ。エビデンスに基づいた正しい情報を、行政・医療者が根気よく市民に伝えていく必要がある。

令和 6 年度の事業実績について他に質問や意見はございますか。

それでは次に「令和 7 年度の事業計画」について事務局から説明をお願いします。

【海野課長】

(※省略：資料 2 (2)「静岡市感染症予防計画について」13～18P の説明)

議題 2「感染症予防計画の令和 7 年度の主な取組について」は、以上でございます。

【水野委員】

ありがとうございます。

ただいまの説明に対し、ご意見、ご質問がありましたらお願いします。

令和 6 年度からの継続する事業が多いと思いますが、令和 7 年度にここが変更になった、ここが新しい事業だというように強調する点があればいつまでも教えていただきたいのですが。

【海野課長】

ご説明した内容について、資料ではアンダーラインが引かれている部分が新しい内容となっておりますので、そちらをご参照ください。

【水野委員】

それでは、委員の方からご意見・ご質問をお願いいたします。

【田口委員】

市民の皆様には制度を周知する機会を提供することは重要ですが、チラシを見ても、その内容が自分にどのような意味を持つのか十分に伝わるかが課題です。例えば HPV ワクチンについても、オーストラリアで根絶が達成された背景やキャンペーン手法を参考に、効果的な情報発信の方法を検討する必要があります。動画なども、視聴者にとって理解しやすく、納得できる内容であるかどうか重要です。事業としての実施はもちろん大切ですが、その効果を最大化する工夫についても併せて検討すべきだと考えます。

【田中所長】

日本の HPV ワクチンに関しては、欧米諸国に比べて接種率が低い状況です。過去には薬害問題を背景としたネガティブキャンペーンが展開され、ワクチンへの不安が強く植え付けられました。その影響で、HPV ワクチンに関してもショッキングな映像が繰り返し

報道された経緯があります。一方で、他国ではワクチンの効果が先行して伝わり、接種が進んだという違いがあります。今後は、自治体として正しい科学的エビデンスに基づいた教育や市民への啓発活動を継続していきたいと考えています。

【水野委員】

田口委員の指摘に関連して、行政が実施しているキャンペーンの効果が市民にどの程度伝わっているかをどのように評価しているかについて教えてください。

【田口委員】

公的情報が正しく提供されても、市民がどの程度理解し納得するかは別問題です。むしろインフルエンサー等の影響力が強く、彼らの手法を参考にした動画の活用が有効だと考えられます。例えば阪大の忽那先生と吹田市保健所が制作したパンデミック対応動画のように、質の高い動画であれば市民の関心を引けると思います。

【田中所長】

当市でも動画を作成しています。視聴者の集中力を考慮し、短時間で要点をまとめ、専門用語を極力使わずわかりやすく表現する工夫を行っています。また、食中毒やノロウイルスに関する動画も制作し、理解しやすく提供しています。アクセス数や再生回数を指標として効果を確認していますが、今後も QR コードの活用や医師会の協力による掲示など、様々な媒体を通じて情報発信を強化していく予定です。良いアイデアがあれば積極的に取り入れたいと考えています。

【水野委員】

田中所長、ありがとうございました。

それでは、他に令和 7 年度の事業計画についてご質問やご意見はございますでしょうか。特にない場合は、次の議題（3）「静岡市新型インフルエンザ等対策行動計画の改定について」に移りたいと思います。事務局からご説明ください。

【海野課長】

（※省略：資料 3（3）「静岡市新型インフルエンザ等対策行動計画の改定について」
19～24P の説明）

【水野委員】

行動計画改定について、ご質問やご意見のある方はいらっしゃいますか。

鈴木委員、お願いいたします。

【鈴木委員】

行動計画については、国や県に準じることは当然ですが、ぜひ盛り込んでいただきたいのは、スピード感を発揮できるような仕組みです。会議体ばかり増えて循環してしまう状況では対応が遅れるため、迅速に意思決定できる体制や記載があると良いと考えます。

【海野課長】

ご意見ありがとうございます。

【水野委員】

他に何かこの改定についてご意見はございますか。

市民委員の片平委員、山本委員、いかがでしょうか。

【片平委員】

新型インフルエンザ等行動計画の改定に関して、啓発やワクチン接種の推進について、市民がどのように計画に関与し意識を持つかが重要です。前回の計画と大きな変化は見られませんが、環境変化や外国人の増加など社会的状況を踏まえ、最終的に自分の健康は自分で守るという意識を持たせるようなスピード感のある啓発を次回の改定で取り入れると良いと思います。

【水野委員】

ありがとうございます。その観点も含めて検討していただければと思います。山本委員、何かございますか。

【山本委員】

令和 7 年度の事業計画で、風しん抗体検査を回覧板で回す取組は非常に良いと思います。HPV ワクチン接種向上のための学校配布チラシについては、中学生・高校生が親に確実に伝えるかが課題です。保護者会に配布しても参加する親に限られるため、確実に保護者の目に届く方法はないかと感じました。

【田中所長】

学校からの配布物は保護者の目に届きやすい方法の一つです。お子さんが持ち帰るチラシは、多くのお母さんが目を通す傾向があります。教育委員会の協力のもと、全国的にも先駆的な取組として評価されています。今後も他の効果的な配布方法について検討してまいります。

【水野委員】

新型インフルエンザ行動計画の改定について、他にご意見はございませんか。

では、田口委員。

【田口委員】

スピード感を出すためには、最初に全員で意見を擦り合わせる方式では時間がかかります。事前に役割分担を明確にし、少人数で意思決定できる合議体を設置して、指示通りに迅速に行動できる体制を構築すべきです。各施設は与えられた業務を各自で遂行すれば良いようにすることで、スピードが向上します。

【水野委員】

スピード感を持たせるために、そのような体制を整えるということですね。

【田口委員】

はい。

【水野委員】

ありがとうございます。他にご意見はございますか。

では時間も押しておりますので、次に進ませていただきます。

（４）その他について、事務局からお願いいたします。

【海野課長】

ニュースでご承知の方も多いかと思いますが、SFTS（重症熱性血小板減少症候群）についてご報告します。６月下旬にお二人の発症例があり、そのうちお一人は死亡されました。どちらもマダニに咬まれた跡があり、行動履歴からお二人とも畑に出ていたことから、畑でマダニに咬まれた可能性が高いと考えられます。全国でも報道されており、こうした事例があることをご報告いたします。

【水野委員】

SFTS についてのご説明でした。ご意見・ご質問はございますか。

【鈴木委員】

マダニがウイルスを保有する割合は増加していると考えてよいのでしょうか。発症例は散発的ですが、もともと存在しなかった輸入感染症として、周囲のマダニを通じてリスクが高まっているという理解でよろしいでしょうか。

【田中所長】

ご指摘の通り、SFTS はもともと常在する感染症ではありませんでした。現在の報告では、ダニが感染を保持する割合は数パーセント程度とされています。感染経路としては、野生の哺乳類がウイルスを持ち、それをダニが吸血することでヒトに伝播します。また、ペットも感染源となる可能性があります。最近では、三重県で獣医師が猫の診察中に感染した事例、茨城県では屋内飼いの猫からの検出事例も報告されています。有効なワクチンはないため、予防としては、山歩きや農作業時に皮膚を露出させない、忌避剤を使用する、ペットにも注意する、といった対策が重要です。今後も情報提供を継続してまいります。

【水野委員】

岩井委員、お願いいたします。

【岩井委員】

SFTS の治療薬としてアビガンがあります。10 日間の治療で薬価は約 360 万円で、開封後は半年間しか使用できません。在庫を持つことは難しいため、県内の医師会が調整しており、薬剤は必要に応じて入手可能です。しかし、検体検査は病院内で行えないため、結果はすぐに出せない可能性があります。

【水野委員】

各病院で薬を常備することは困難ですので、調整をうまく行う体制を整えていただければと思います。田口委員、いかがですか。

【田口委員】

アビガンを使用するには e-learning の受講が必要です。受け入れ可能な病院では、事前に職員が受講しておく必要があると考えます。

【水野委員】

はい。感染症対応は大変ですが、今後も保健所での調整を含め、しっかり対策をお願いいたします。

本日予定している議題は以上です。時間が延びてしまい申し訳ありません。委員の皆様、ご協力ありがとうございました。進行を事務局にお返しいたします。

【稲葉係長】

水野会長、ありがとうございました。

本日の協議会は以上となります。閉会にあたり、田中一成保健所長よりご挨拶申し上げます。

【田中所長】

本日は夜遅くまで活発な議論をいただき、ありがとうございました。インフルエンザ、新型コロナ、SFTS と、感染症に関する課題は尽きません。時代ごとに新たな感染症が現れますが、予防計画や行動計画に沿って、国・県・市が一体となり迅速に対応し、市民の安全を守ってまいります。引き続きご指導をお願いいたします。

【稲葉係長】

以上をもちまして、「令和 7 年度 第 1 回 静岡市感染症対策協議会」を閉会いたします。次回協議会は 10 月頃の開催を予定しており、「静岡市新型インフルエンザ等対策行動計画」の改定案について皆様からご意見をいただく予定です。

本日はお忙しい中ご参加いただき、誠にありがとうございました。